

新「共通特論 I」：臨床腫瘍学総論
がんゲノム医療と遺伝性腫瘍

講義日：2022年6月11日（土）

講師：田村 和朗（近畿大学 理工学部 生命科学科 客員教授）

要旨

がん遺伝子パネル検査、遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）の原因遺伝子検査が保険適用されるなど、個別化医療のシステムが進んでいる。がん遺伝子パネル検査により、当事者の生まれながらのゲノム（germline）の情報が確認されるようになり、二次的所見と呼ばれ、遺伝性腫瘍が診断される一つの道筋が確立された。がん遺伝子パネル検査と遺伝性腫瘍診療がシームレスに行われることが求められている。

遺伝性腫瘍に関わる(1)はじめに（がんを取り巻く背景）、(2) がんと遺伝を理解するために、(3) がん発生について、(4) ゲノム（DNA/遺伝子）の検査、(5) 遺伝学的検査、(6)がんゲノム医療、(7) がんゲノム医療時代の遺伝カウンセリング、(8) 遺伝性腫瘍、リンチ症候群、リー・フラウメニ症候群、遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）、(9) がんゲノム医療と遺伝性腫瘍のシームレスな医療について、(10) さいごに（多職種連携）の10項目について基礎的かつ基盤となる講義を行う。